

龍谷大学世界仏教文化研究センターE-journal  
『世界仏教文化研究』執筆要領 スタイルシート

(本文サンプル)

用紙サイズ：A4 版  
文字数：40 字  
行数：36 字

題名は18ポイント明朝体(太字)

—副題は12ポイント明朝体—

中寄せ

1行空け

章 I, II, III……(ローマ数字大文字)  
節 1, 2, 3……(アラビア数字)  
項 (1), (2), (3)……(括弧付きアラビア数字)

能仁正頭 (Masaaki Nōnin)  
龍谷大学世界仏教文化研究センター長  
(Director, Research Center for World Buddhist Cultures)

右寄せ  
10.5pt

2行空け

I 章題名は10.5ポイント明朝体太字

1 節題名は10.5ポイント明朝体

Times New Roman

1行空け

ルビ 4pt、  
オフセッ  
ト 1pt

本文開始。

唐澤は「<sup>からさわ</sup>」<sup>(1)</sup>と述べている。オッペンハイムによると、それは“ ”<sup>(2)</sup>であるという。

注釈番号

また那須は、

1行空け

2マス空け   英語引用文<sup>(3)</sup>

1行空け

と説明している。

本文終了。

図は Jpeg ファイルで別途、  
データで送ること。本文中に  
図の位置を明示すること。

図(1) キャプション

本文終了後、「以上」  
とつけること。 } 以上

参照文献 (Bibliography)

アルファ  
ベット昇  
順に表記  
すること。

- Kameyama, Takahiko. “‘Correct Awareness and Firm Belief’ (*shinchi*) in the *Saigokanjō jōgyō shin'yōhō*.” *Journal of Indian and Buddhist Studies* 64, no. 3 (March 2016): 1310-1315.
- Oppenheim, Janet. *The Other World: Spiritualism and psychical research in England, 1850-1914*. Cambridge: Cambridge University Press, 1988. (和田芳久訳『英国心霊主義の抬頭』工作舎、1992年。)
- 唐澤太輔『南方熊楠の見た夢—パサージュに立つ者—』勉誠出版、2014年。
- 能仁正頭「阿含経から大乘への展開」『龍谷大學論集』第460号、2002年。

脚注

- (1) 唐澤太輔『南方熊楠の見た夢—パサージュに立つ者—』勉誠出版、2014年、50-52頁。
- (2) Janet Oppenheim, *The Other World: Spiritualism and psychical research in England, 1850-1914* (Cambridge: Cambridge University Press, 1988), 56. (和田芳久訳『英国心霊主義の抬頭』工作舎、1992年、77頁。)
- (3) *Ibid.*, 101.

9pt

- 1, 本文におけるフォントは明朝体を基本とする。アルファベットおよび英数字は Times New Roman を基本とする。その他のフォントを使用する場合は、原稿内にその旨わかりやすく指定する。
- 2, フォントサイズは以下の通りに定める。
  - ・ 題名：18 ポイント(太字)
  - ・ 副題：12 ポイント
  - ・ 執筆者名：10.5 ポイント
  - ・ 本文：10.5 ポイント
  - ・ 各章の題名：10.5 ポイント(太字)
  - ・ 各節の題名：10.5 ポイント
  - ・ 注番号：10.5 ポイント
  - ・ 脚注：9 ポイント
- 3, 原稿レイアウトは以下の通りに定める。
  - ・ 用紙サイズ：A4 版
  - ・ 文字数：40 字
  - ・ 行数：36 字
- 4, 漢字等にルビを振る場合、サイズは4ポイント、オフセットは1ポイントとする。
- 5, 和文における句読点は「、」「。」を用いること。「,」「.」等は使用しない。
- 6, 注釈番号は本文中の右肩に、<sup>(1),(2)</sup>……のように示し、通し番号とする。
- 7, 原稿中（日文・英文共通）における章・節および項は原則として次の記号を用いる。
  - 章 I, II, III……(ローマ数字大文字)
  - 節 1, 2, 3……(アラビア数字)
  - 項 (1) (2) (3)……(括弧付きアラビア数字)必ず章は設けること。節、項に関しては必要に応じて使用する。